

市の貯金と借入金の状況

臨時財政対策債と旧合併特例事業債の発行状況

市債のうち、臨時財政対策債と合併特例事業債の発行状況は下の表のとおりです。
市ではこれらの制度を活用し、新市まちづくり計画に基づいた保育園などの子育て関連施設や交流学習センター、安曇野赤十字病院建設費補助などの事業に活用しました。

臨時財政対策債

地方交付税として交付するべき国の財源が不足するため、その穴埋めとして地方公共団体自らに地方債を発行させる（借金させる）制度です。償還に要する費用は、後年度の基準財政需要額に算入されるため実質的な負担はありません。

旧合併特例事業債

新たなまちづくり・地域づくりを進めるため、庁舎などの公共公用施設の建設事業や地域振興事業のための積み立てなどに活用することができる地方債（借金）です。対象事業費の95%まで借入れすることができ、返済する際の元金と利子の70%相当額が、毎年基準財政需要額に算入される制度になっています。旧合併特例事業債は、合併特例法（旧法・平成17年3月31日失効）に基づく市債です。

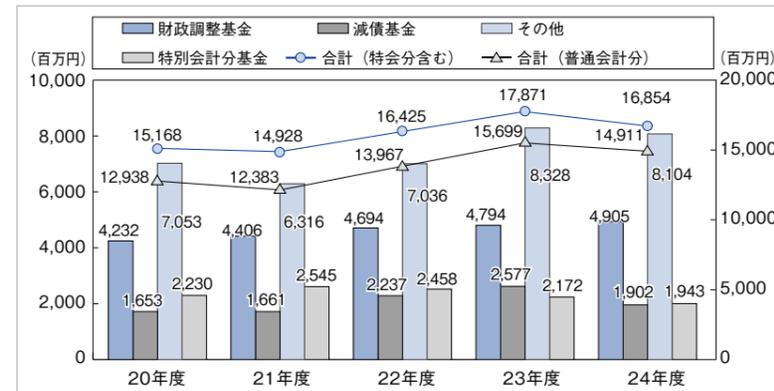
臨時財政対策債と旧合併特例事業債の発行状況

(単位：百万円)

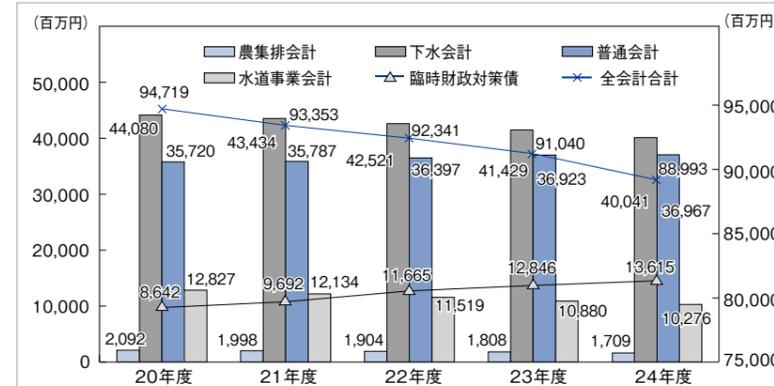
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
臨時財政対策債	1,000	1,554.0	2,647	1,969	1,620
旧合併特例事業債計	1,685.8	2,006.1	2,027.1	2,673.5	2,455.1
穂高交流学習センター	348.2	66.0	45.1	871.0	1,610.1
有明保育園	576.4	69.5	321.2	241.9	217.8
安曇野赤十字病院建設補助	459.5	118.7	58.9	100.6	3.7
堀金保育園	301.7	1,641.3	1,188.4	183.5	130.7
		38.3	139.3	706.5	88.4
		72.3	274.2	570.0	57.8
					71.2
					91.1
					24.9
					159.4

※平成20年度から平成24年度までの過去5年分の発行状況です。

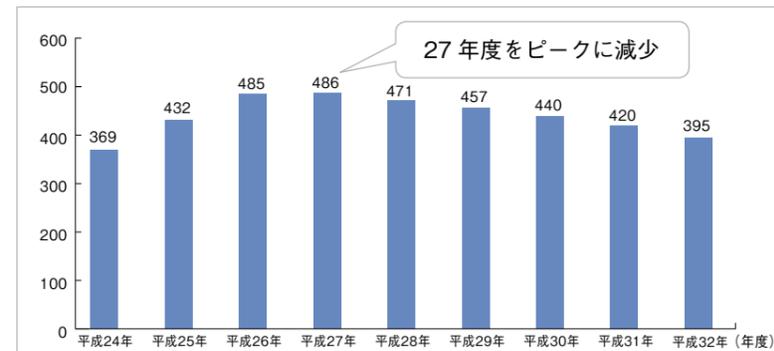
基金（貯金）残高（グラフ1）



市債（借入金）残高（グラフ2）



普通会計における市債（借入金）残高の推移（グラフ3）



※平成23年度公表の「市財政計画」を1億円単位でグラフ化

普通会計の市債残高は27年度をピークに減少

基金（貯金）の残高（グラフ1）
基金残高については、財政調整基金が年々増加となっており、また、目的のあるその他の基金についてもそれぞれの事業推進のため積み立てを行っています。

市債（借入金）残高（グラフ2）

市債の平成24年度末残高は、全会計の合計で889億9300万円となり、前年と比べると2億4700万円減少しています。（臨時財政対策債残高は、普通会計残高に含まれます。）
普通会計における市債（借入金）残高の推移（グラフ3）
普通会計における市債残高を推計すると次の表のようになります。

ます。
平成27年度までは、新本庁舎建設や保育園整備などの事業により市債残高が増加しますが、事業の平準化を図り借入額の抑制に努めます。

◎決算審査報告

平成24年度決算および財政健全化判断比率等について、8月に監査委員から決算審査報告を受けた後、9月定例会で認定されました。引き続き財政の健全性の確保に努めます。概要は次のとおりです。

1 一般会計・特別会計・公営企業会計決算について
審査に付された各会計歳入歳出決算書およびその付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、計数等は関係諸帳簿および証書類と照合した結果、正確であるものと認められた。

また、各基金の運用状況を示す書類の計数は、関係諸帳簿と符合し正確で、運用状況についても適正であると認められた。予算執行状況は、その目的に沿っておおむね適正に執行されているものと認められた。
2 健全化判断比率等について
審査に付された健全化判断比率および資金不足比率についてその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。